

## ご退職・ご転勤される先生方からのご挨拶

令和2年3月24日



～ はじめに ～

この度、14名の皆様が、ご退職・ご転勤されることになりました。

全ての先生方が、生徒の皆さんのことを第一に考え、献身的に勤務してこられました。出雲高校にとって

なくてはならない存在であり、ここでお別れするのは残念でなりません。

さて、今年度は、新型コロナウイルスへの感染予防の観点から、離・退任式を行いません。先生方のご挨拶を生徒の皆さんに直接聞いてもらうことができず、大変申し訳ありませんが、やむを得ない措置ですので理解してください。

その代わりとして、先生方のご挨拶を印刷しました。

皆さんへの先生方からのメッセージです。

先生方が今後ますます活躍されることをお祈りしています。

### 教頭（数学科） 田根 衛 先生 大東高校（校長）へ

「春風や 闘志抱きて 丘に立つ」GRITism ノートの表紙に筆ペンで書いたこの言葉を毎日見ながら初心を忘れないように過ごしてきました。久徴の精神は「至誠 やむことなし、…久しければ 徴し有り」なのですが、残念ながら私はその“徴し”が現れる手前での異動となりました。何事にも意欲的で誠実で明るい皆さんとの気持ちのいいふれあいがいっぱい出雲高校での勤務は、私にとってかけがえのないものとなりました。出雲高校の生徒・保護者、久徴会の皆さんには感謝しかありません。皆さんに幸多かれと祈っています。ありがとうございました。

### 国語科 張戸 清典 先生

出雲高校では3度、通算17年も勤めさせていただきました。これほど長く勤められたのも、ひとえに生徒の皆さんや先生方のおかげだと、感謝の思いでいっぱいです。

さて、アメニティという言葉についてお話して、お別れのことばとしたいと思います。生徒の皆さんの中には、将来出雲を離れ、日本各地や海外で生活される人も多いことでしょう。どこに住むにしても、アメニティを意識して過ごしていかれるとよいと思います。アメニティとは、生活の快適さということ。「人間（じんかん）至るところに青山あり。」という言葉があります。青山とは故郷のことで、人はどこに住もうと、その場所を故郷のように住みよいものにすることができるという意味です。

住む場所を快適にするために、まず考えたいのは、やはり人的環境を整えることではないかと思います。選べるのなら、よい人的環境を意識して選ぶとよいと思います。そして自然環境。それから、文化や伝統です。空気存在を普段私たちは意識しませんが、文化や伝統はちょうど空気のようなもので、実は自分達を支える大きな力を持つものなのです。

雪

三好達治

太郎を眠らせ、太郎の屋根に雪ふりつむ

次郎を眠らせ、次郎の屋根に雪ふりつむ

この詩のイメージ……ふるさとですくすくと育つ子供たち。それをやさしく包みしんと降り積もる雪。そして、人と自然とが一体となって織りなす日本の文化とか伝統とかいったものも、この詩から伝わってくるように感じられます。

目まぐるしく変化する世の中では、思うに任せない状況やつらい体験は避けては通れないと思います。しかし、そんな時こそ、アメニティについて考えてみるとよいと思います。まず自分を支えてくれる人達に目をむけましょう。あなたは一人ではないことに気が付くと思います。次に、自然に目を向ければ、きっと心が癒されます。そして、文化や伝統に目を向けると、そこから何かヒントが得られるのではないかと思います。「久徴」に示された出雲高校の精神や伝統を示す言葉も、つらい状況を乗り切るための確かな支えとなってくれるのではないかと思います。

### 地歴公民科（日本史） 大西 祐次 先生 松江商業高校へ

出雲高校には8年間お世話になりました。この8年間は非常に多くの経験をさせていただきました。8年中2年担任を4回、3年担任を3回させていただき、さまざまな生徒の成長を学級担任として感じられたのは貴重な財産となりました。教科指導においても高い学力を持った生徒の皆さんにプレッシャーを感じながら、楽しく授業をさせていただきました。また、生徒会の担当を4年間経験させてもらい、生徒会執行部のメンバーの素晴らしい発想を具体化していく姿をすぐそばで見ることができたのは素晴らしい経験となりました。そして部活動においても8年間、吹奏楽部と弦楽部の副顧問として、部員が充実した活動ができるように微力ながらお手伝いさせていただきました。弦楽部では、シンフォネットの練習会や演奏会での関わりでしたが、温かい雰囲気演奏会に心癒される思いでした。吹奏楽部では、自分も吹奏楽経験者ということもあり、その活動の大変さもよくわかっていましたが、部員の皆さんのひたむきな活動にふれて、ここでは書ききれないぐらいたくさんの思い出ができました。

これからまた新しい学校に行つて新たな経験をしていくことになると思います。生徒の皆さんも、自分のやりたいことにこれからどんどんチャレンジしてください。あるいは今、明確に何をやるという目標がない人も、常に感性のアンテナは立てておいて、ちょっと気になることとか、引っかかることに目を向けつつ、今、目の前のことを全力でやってみてください。自分の可能性を信じて、あまり構え過ぎずに、落ち着いて最後までやり抜く姿勢を忘れずに、さまざまなことに取り組んでいってください。これからの皆さんのさらなる活躍を期待しています。

それでは、またどこかで会うことがあれば、元気な姿を見せてください。8年間、ありがとうございました。

## 地歴公民科（世界史） 小山 理久 先生

1年間大変お世話になりました。出雲高校は授業、部活動、SSH、課題研究と忙しいなか、澁刺と前向きな生徒の皆さんのエネルギーをもらいながら、この1年、頑張ることができました。ありがとうございました。次の学校でも一から頑張りたいと思います。

これから皆さんは、何回かの壁を経験することもあるでしょうが、その壁に会った時に前向きにどうやって乗り越えるか、突き破るか、1世紀、今から二千年前の中国、後漢の建国者劉秀光武帝の言葉を思

い出してください。この言葉を劉秀から七百年後、「貞観政要」で知られる唐の太宗、李世民も使っています。

「疾風に勁草を知る」 范曄 『後漢書 列伝十 王覇伝』

疾風とは激しく吹く風、暴風のことで、勁草は強い草のことです。劉秀が漢王朝再興のため挙兵した際、連戦連敗、負け続け、彼に従っていた者たちは逃げて行ってしまいますが、王覇だけが彼のもとに最後まで残った、その時に劉秀が王覇に言ったことばです。

困難や試練に直面した時にこそ、はじめて、その人の意思の強さや人としての値打ちがわかるという況えに使われます。逆境をむかえたときこそ、ここが勝負だと前向きに臨むことが必要でしょう。そして、この言葉には、さらにもう一つの意味が含まれているように思えます。それは、地に根をしっかりと張り、知識や技能という養分を吸い上げ、そして木とは異なり草のように柔軟でしなやかな思考力、知性を持っているれば、どんなに激しく吹く風、ポキンと折れることなく、逆境にも耐え、強い草として前向きにやっていくことができる。これから、皆さんは勁草となるよう目標をしっかりと設けて、日々努力を重ねていってください。人のあらゆる行為には努力と結果があり、努力の大きさに比例してそれにふさわしい結果が生じることを忘れずに。

## 地歴公民科（世界史） 吉井 宏季 先生

まず、初めにこの一年間、出雲高校で過ごせたことをとてもうれしく思います。ありがとうございました。この場を借りて、生徒のみなさんにこれからも大切にしてほしいことを伝えたいと思います。それは、「挑戦」することです。ありきたりのことに聞こえますが、これが意外と難しい。そこで意識してほしいのが自分に限界をつくらないこと。「これ以上勉強しても、点数は上がらない」、「いくら練習しても上手にならない」など思い返してみれば限界をつくってあきらめていることも多い気がします。限界をつくらず努力し続ければ必ず成功する、とは言い切れません。たくさん努力したけど結果がついてこないということは多々あります。それでも、努力することをやめないでください。すぐには結果が出るとは限りませんが、自分がこつこつ積み重ねてきたものは必ず大きな財産となります。私自身、今となって高校時代頑張った良かったな、無駄ではなかったなと思うところがたくさんあります。それは目標に向かって挑戦し続けたからこそだと私は思います。これからの人生、多くの困難や壁が待ち受けていることと思います。そういうときこそ、自分に限界をつくらず「挑戦」し続けてください。短い間でしたが、ありがとうございました。

## 地歴公民科（地理） 和田 伸二 先生 教育庁 教育指導課へ

この度の異動で、6年間お世話になった出雲高校を去ることになりました。出雲高校は私にとっての母校ですが、赴任した時には、母校で勤務するということに対して、正直、特別な思いありませんでした。出雲高校での勤務を通して、少しずつ高校時代のことを思い出し、また、生徒の皆さんから刺激を受けながら母校への思いも強くなっていきました。また、卒業生会である久徴会の活動の中で、高校時代の友人とも再開することができました。

出雲高校では多くの生徒と出会い、ともに学ぶことができました。野球部の甲子園出場の時、3年生の担任として一緒に喜ぶことができ、良い思い出となりました。そして、今年卒業した71期生の皆さんとは、3年間一緒に過ごさせていただき、楽しく充実した日々を送ることができました。卒業生の皆さんの中には、目標を今年叶えた人もいれば、再度チャレンジする人もいます。進む道は様々ですが、1人ひとりの目標が叶えられるように、少し離れたところから見守っています。出雲高校での生活の中で、出雲高校生や補習科生のすがたから多くの感動をもらいました。ひたすらに粘り強く、本気で学習に取り組む放課後の3年生、生徒が主体的に動いて創る部活動や学園祭…。そして、皆さんには、未だ秘めたる力があるのではないかと感じています。部活動でも、一緒に考え、創り上げた6年間の練習や大会の一つ一つが、かけがえのない大切な思い出です。道半ばで離れるのは心苦しいですが、皆さんの活躍を期待しています。

生徒の皆さん、保護者の皆さま、先生方に支えられ、6年間の充実した日々を送ることができました。ありがとうございました。これからの仕事の先に、生徒の皆さんのすがたがあることを描きながら、新任地でもがんばっていきたいと思います。本当に、お世話になりました。

## 数学科 牛尾 建太 先生 隠岐高校へ

：今年度の4月に着任したばかりでしたが、本当に残念なことに、みなさんとお別れになってしまいました。様々な方面に対して力があり、精神的に大人である人が多くて驚いたことが印象的でした。

私は、1・2年生の授業に行かせて頂きました。どのクラスも学びに対する姿勢が良く、積極的に授業に参加してくれてありがたかったです。本当に楽しく授業させて頂きました。少しでも数学がおもしろいと思ってもらえる瞬間があれば幸いです。

最後に伝えたいこととして、私の高校時代を振り返ると、毎日楽しく過ごしてはいましたが、勉強の面や部活動の面では、もっと意識的に、もっと早く取り組むべきだったなあと感じることがあります。今、大きく変わるチャンスがたくさんあるみなさんが羨ましいです。「後悔先に立たず」という言葉があります。後から振り返っても、自分の納得のいく高校生活にしてください。

みなさんのこれからの成長と活躍を期待しています。本当にありがとうございました。

# 進撃の出雲

## ～出雲からイノベーションを起こせ～

未来に向けて、毎日少しでも成長することを目的にする

～ 時間のある限り、前に進もう ～

- ① 最悪の事態を想定し、覚悟を決めて、今できる最善の準備を尽くす
- ② やろうとしなければうまくいかない。勇気をもって一歩踏み出し、“我武者羅”に取り組む



“めちゃくちゃ楽しかった”

私の8年間のタイムレース、全力で駆け抜けたからこそ今、この心境になっていると思います。数学・担任・キャリア教育・バスケットを通して、皆さんの成長を感じる楽しさに溢れた毎日でした。でも、自分の感覚で好きなようにさせてもらったので、皆さんや先生方にも多大な迷惑をかけたと思っています。感謝は敢えてするものではないと思っていますが、皆さんや先生方に刺激を受けて今、感謝の気持ちが込みあげています。本当にありがとう。

“進撃の出雲” ～今将校史凌駕～ (今、将に校史を凌駕せんとす)

担任した66期生徒会が考えた久微祭のテーマです。この年、弓道部全国優勝、東京大学6名合格。次の年、県総体初の男女総合優勝。さらに2年後、初の甲子園出場と進撃が続きました。そして令和2年3月10日前期合格発表最終日。東京大学・京都大学11名合格という校史を凌駕する進撃はまだまだ続いています。これらの出来事は私たち教員の指導の成果ではなく、生徒諸君の頑張りがあったからこそ出ている成果です。この出雲イノベーションが起きている時代に勤務し、関わるのが出来た事を本当に幸せに思います。 ありがとう。

今年は創立100周年です。皆さんの力でこの出雲イノベーションをさらに継続させて、校史を凌駕する1ページを皆さんで刻んでください。

でも、何をすればよいのでしょうか？ 目標や目的があるかないかは関係ありません。

目の前にある課題に対して、最悪の事態を想定し、

今、自分にできる最善の準備を、勇気をもって一歩踏み出し“我武者羅”に取り組む。

これしかありません。皆さんが明るい未来を切り開いていくことを今後は卒業生として応援します。

最後は、「ゆず」の力を借ります。

悔しくて眠れなかった夜があった 恐くて震えていた夜があった もう駄目だと全てが嫌になって  
逃げ出そうとした時も 思い出せばこうしてたくさんの 支えの中で歩いて来た  
悲しみや苦しみの先に それぞれの光がある さあ行こう 振り返らず走り出せばいい  
希望に満ちた空へ… see you!!

## 英語科 齋藤 和樹 先生

まず初めに、この一年間、とてもいい経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。大学を卒業して社会人として最初の一年間をここ、出雲高校で過ごすことができたことをとてもうれしく、そして誇りに思っています。頼りになる先生方、熱心でひたむきな生徒の皆さんに支えられ、とてもいい環境で過ごすことができました。たった一年間だけではありますが、ここで学んだことは、きっとこれからの自分の中に残り続けていくと思います。

慣れない授業で分かりづらい部分もたくさんあったと思います。生徒の皆さんにも負担をかけることがたくさんありましたが、質問をしに来てくれたり、授業外でもたくさん話しかけてくれたりしたこと、本当にうれしかったです。授業、部活動、SSなどの活動、どれをとっても熱心に打ち込み、またしっかりとやり遂げる皆さんの姿勢には、僕の方こそ学ぶことがたくさんありました。皆さんの姿勢に、態度に、熱意に応えようという思いが、自分自身の頑張るモチベーションにもなっていました。

最後になりますが、生徒の皆さん、残りの高校生活も無理はしすぎず、適度に休憩しながら、しっかりと満喫してください。

繰り返しになりますが、この一年間、本当にありがとうございました。

## 英語科 松本 拓郎 先生 隠岐高校へ

出雲高校の生徒のみなさん、1年間という短い間でしたがみなさんと過ごすことができてとても楽しかったです。私自身、初めて経験することばかりで様々な面で迷惑をかけてしまうこともあったと思います。それでも、真剣に授業を聞いてくれたり、気軽に話しかけてくれたりしました。それがとても嬉しく、この学校に来て本当に良かったと思いました。

話は変わりますが、これからみなさんが大人になるにつれて様々なことができるようになる一方で、できなくなることもたくさんあります。今しかできないこと、ここでしかできないことを仲間と協力しながらやっていってほしいと思います。大人になって高校時代を振り返ったときに、その時やったことがきっかけがえのない思い出になるはずですよ。このことを少しでも心にとどめて、有意義な高校生活を送ってほしいと思います。

出雲高校を離れることにはなりますが、みなさんのご活躍を陰ながら応援しています。本当に1年間ありがとうございました。

## 英語科 渡部 泉 先生 安来高校へ

71期生のみなさんへ

みなさんと共に過ごした3年間は、私にとってかけがえのないものとなりました。またどこかでお会いできる日を楽しみにしています。それまでおたがいに頑張りましょう。ありがとうございました。

### 美術科 竹田 茂 先生

このたび、定年を迎え、母校である島根県立出雲高等学校を最後に、教員生活に終止符を打つことになりました。母校での3年間の勤務は、緊張感のある有意義な毎日でした。

特に、1年生の副担任として2年間、SSの時間に一緒に勉強できたことは、新たな発見の機会となりました。そのなかでもSSの最初の時間に、2020年代後半には今ある職業の半分以上がなくなり、今は存在しない職業に就いているだろうという話をしたことです。言い換えれば、無責任にも未知の時代に後輩を送り出すことになるのです。

AI技術の加速度的進歩による「Society5.0」という超スマート社会の到来を前に、美術を専門としている私が生徒の皆さんに何をしてあげられるのか考えた結果は、ものごとを「観察すること」、「自分を知ること」、「整理してまとめること」、つまり「デザインする」ことでした。

1年生の美術の最後の授業で、ほとんどの人が「自分のことについて考える、見つめなおす時間だった」とか「自分とは違う考え方や感じ方に触れることができた」、「見つめる力が身についた」などという振り返りをしてくれました。美術の授業をして良かったなと思いますし、みんなよく付き合ってくれたなと感謝の気持ちが湧いてきました。

最後に、もう一つ、生徒の皆さんに伝えておきたいことは、「目標は一つではなく複数持ってください」ということです。これからの長い人生の中で、一つの仕事で一生を終えることはこれから先の時代では考えられません。時代の流れを敏感にとらえて変化していくことが必要だと思うからです。

私自身が、教員生活を終わりにしたのは、高齢者も進化していかなければならないと思ったからです。80歳まで生きるとしてもあと20年あるわけです。スマート社会に取り残されないように、新しい目標に向かっていきたいと思います。とりあえず、地域の活性化のためにアイデアを出していきたいと思います。また、保護者の皆様にはPTAの担当として、多数の方々に親しく接していただきましたことにお礼申し上げます。特にPTA役員の皆様には、至らぬ点が多々ありご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

### 養護 桜田 真子 先生 仁多中学校へ

こんにちは。本日は、直接みなさんの顔を見て挨拶することが出来ず残念ですが、このメッセージでこれまでの感謝の気持ちを伝えたいと思います。

平成30年度の春に出雲高校へ着任しました。引っ越しから始まった不安と緊張が嘘のように、みなさんと過ごした時間は充実していてあっという間でした。

養護助教諭として、また、2年生学年付きとして、日常から行事まで様々な時間をみなさんと共にし、この2年間は素敵な思い出でいっぱいです。みなさんとは保健室だけでなくいろんな場で関わる中で、今時の高校生事情を含め学ぶこともたくさんありました。まだ私とは年齢が近い人たちだと思っていたのですが、「ジェネレーションギャップですね」と数度言われてしまったのは衝撃でした。認識を改めます。

4月からは別の学校で勤めることになりましたが、みなさんが健康で自分らしく生きていけるよう、これからも応援しています。あと数日は出雲高校で過ごしているので、是非お話ししましょうね。2年間、本当にありがとうございました。

### 実習主任 成相 圭子 先生 瀬摩高校へ

6年前 出雲高校に着任したとき、何十年ぶりに母校の校歌を聞きました。こんな素敵な校歌だったっけ？と感じたことを覚えています。10代の頃には感じとれなかったけれど、その時代その時代で同じ物でも感じ方は違うのかもしれませんが。

この6年間 高校時代に踏み入れたことがなかった久徴園にもものぼりサクラを見ました。頂上はひらけていてベンチもあり息抜きするにはもってこいの場所です。踏み入れたことのない皆さん是非行ってください。そして四季折々に咲く植物や生き物に囲まれた環境の中で過ごすことができたことに本当に感謝しています。

「笑う門には福来たる」 私が「久徴」に書いた座右の銘です。生きてると楽しいことばかりではなく泣きたくなることや腹立たしくなることがたくさんおきますよね。そんな時、ふと相手が笑って見てくれたら、ついつい自分も口元がゆるんできませんか？

涙をふいて 空を見上げて

君の微笑みが 世界を変えるスマイル

“ゆず スマイルより”

### 学校司書 行武 望 先生 出雲商業高校へ

11年間の長い間お世話になりました。この間、たくさんの人たちと出会えたことは本当にありがたく、私の財産だと思っています。ただ、11年も経つと確実に年を重ね、目が悪くなったり聞き違い・聞き漏らしをしたりして、みなさんにはご迷惑をおかけしました。年のせいだご勘弁を……。

この間には、平成25年度から本格的に始まったSSHでのディベートや課題研究に様々な形で関わり、本当に自分の勉強になりました。このために新たに学んだ知識ももちろんたくさんあるのですが、高校時代に「ここまでする必要があるの？」と思っていた、苦手だった数学や化学の知識が役に立ったこともあります。勉強や経験に無駄はない、と改めて思いました。

昨年離任式。離任者の先生方の話を聞きながら、「自分が転勤するときはなにを話そう？」と考えたとき、「もっと生徒のみんなとゆっくりと話がしたかった」と思っている自分がいました。「じゃあ、今年ではできるだけみんなと話をしよう！」と思っていましたが、いかんせんやはり慌ただしく、なかなか思うようにはできませんでした。ですが、授業中の雑談や、休み時間や掃除の時間のおしゃべりなど、ささいな時間にいろいろな人といろいろな話ができただけは、本当に幸せでした。

ただ一方で、授業時間にせっかく図書館に来てくれても、いつも口やかましく資料の使いかたやメモの仕方、まとめかたなどの話ばかりを重ねてしまって、みなさんにつまらない思いもさせたかと思っています。けれども、この、図書館の資料やインターネットを使って情報を集め、自分の頭で考え、仲間と話し合った多くの経験は、設定した課題解決だけでなく、受験や進学先、そして社会に出てからも役に立つスキルです。ぜひ意欲的に挑戦してってください。これからも図書館を使ったり本を読んだりしてほしいのはもちろんですが、その手に取った情報を鵜呑みにするのではなく、「自分の頭で考えられる人」であってほしいと切に願っています。

またそれよりも何よりも、自分の心と体を大切にしてくださいね！みなさんのこれからの活躍を、隣の学校の職員として、近所のおばちゃんとして、応援しています！

### 事務 小原 明美 先生 出雲農林振興センター

平成28年の5月から約4年間、事務室で勤務させていただきました。最初の3年間はスーパーグローバルハイスクール事業の経理を担当していました。それまでは15年間専業主婦で、久しぶりに仕事をするので、不安も不慣れなことも沢山ありましたが、生徒の皆さんの明るい挨拶、勉強や部活動を頑張る姿に元気をもらい、毎日楽しく仕事をすることができました。ありがとうございました。

おかげでなんだか気持ちが若返り、「次の職場でも、家庭でも、怯まずチャレンジしてみよう！」という気持ちになっています。(若返ったのは気持ちだけなので、肩やら目やらあちこちガタが来ている現実と戦いながら…)

本当に若い皆さんの、今後のご活躍を楽しみにしています。